

【ナムナム】

南無/numb

マヒした心を解きほぐす。坊主のつぶやき。

NAM NUMB #2



INTERVIEW

よしなしごと

“心に浮かんで消えていくたわいもないこと”をもっともらしく語り合うこのコーナー。今回のお相手は、伏木駅前、勝興寺へ伸びた参道の中腹にある“おべんとうカフェにじのこや”店主・牧野友香さん。

坊主カフェ開店の際にもお世話になった牧野さんと、お店のことやお寺のこと、ゆったりとお話してみました。

初瀬部 真亮 Sinryou Hasebe

小矢部市岡 宝性寺住職。
地域子ども達から「わか」と慕われるやさしい人柄。
得意料理アヒージョ。



ふしき坂ノ上ヴィレッチ

初瀬部 東京をはじめ、全国色々なところで移動販売をされていたとお聞きしましたが、今の場所（伏木駅前）にお店を構えたというのはどういった理由だったのですか？

牧野 元々、伏木のお肉屋さんお魚屋さんや八百屋さんの食材を使って移動販売してたんですよ。手に入らないものであっても出来るだけ県産の食材で。そうやって色々なところで販売しているうちに、私も地元で何かやりたいなあと思って始めました。理念として、地元でお金を使う、というのがあったので。

初瀬部 牧野さんのお店に隣接して「フリースペース」と「ガラス作家さんのお店」があって、この空間を、坂の上ヴィレッチと呼んでいますが、ヴィレッチ（村）に込めた想いというのはありますか？

牧野 それは忘れてしまいました（笑）。私自身がワクワクする場所にしたという思いはあります。人が集まって、もちろん来られた方にもワクワクして欲しいのです。ワクワクの共有ができればいいなと。

Interviewer

初瀬部 村、というのはやはり人と人のつながりが大事ですよね。実際に会ったり顔を見て話すこともそうですが、一緒に時間を過ごすということが人間の信頼関係をつくることにおいても大切に思います。僕らもひよんなことでも出会って、今ではこうして仲良くお話しさせて頂けるようになりました。そういうえば、昨秋の「ふるこはんフェス」（※1）ではありがとうございました。

牧野 こちらこそ。

※1 伏木の勝興寺を会場に開催された地域イベント。鸞翔会は坊主カフェ&バーと音楽法要を担当。

非日常に身を置くこと

初瀬部 「ふるこはんフェス」で僕たち僧侶は、坊主カフェ&バーを牧野さんご協力のもと開店させて頂きました。慣れない接客をしながら思っていました。見ず知らずの人たちが勝興寺という、宗教的な空間を共有することで、お互いに少しだけ心の壁を薄くしているような感覚がありました。

牧野 あれは不思議な試みでしたね。お坊さんがドリンクを販売することは非日常ですけど、私にとっては日常なんです。逆にお寺という場はお坊さんにとっての日常で、私たちにとっては非日常。この二つが融合していて凄いいイベントだなあと思いました。

初瀬部 お互いの違いが何か新しい瞬間を生む、そんな感じだったのかもしれない。しかし、牧野さんのお弁当が大人気で、長蛇の列。あの時間帯がいちばん忙しかったです。

牧野 すいません（笑）

初瀬部 毎年様々なイベントに出店されていますが今年にはコロナの影響で軒並み中止だと思います。昨年出店を手伝われたフジロック（毎年新潟県苗場の大自然の中で行われる大規模な音楽の祭典）も来年へ延期になりましたね。

牧野 しょうがないとはいえ思った以上に寂しいです。伏木にお店は構えましたけど移動販売も好きなので、楽しみがなくなると気が抜けたというか。

初瀬部 そういうことはありますよね。当たり前だと思っていたものがなくなって、改めて気づくようなこととか。普段はなかなか気づかないんですけどね。

牧野 私、最近キャンプに行きたくてしょうがないんですよ。

初瀬部 僕も毎日YouTubeでキャンプの動画見ってます！キャンプの魅力って何でしょう。自然のエネルギーみたいなものや開放感でしょうか。月並みですが。

牧野 フジロックでも思うんですけど、不向き、が良くないですか？あるもので何かをしないといけないという、不向き。

初瀬部 なるほど、確かにそれはありますね。社会は忙しく、効率ばかり求めていて、僕たちはゆとりのない時間を生きているかのように。時にはそこから離れて、時間の流れを自然のままに感じたいのかもしれない。コンビニやファストフードは便利ですけど、実際キャンプに行くとき、食べるにしても、火を起こしてから食材が口に入るまでかなりの時間を費やします。でもそこには、ただ美味しい、ではなくて、おのずと自然や他の命に感謝の念が沸きあがったりしますよね。

牧野 うんうん。仕事や学校を含め、普段の生活から離れる時間、解放される時間を持つことはとても大事ですよ。何気なく過ごしていると見落としてしまうことに気づくことができます。

初瀬部 非日常な時間が心をリセットしてくれたり、大切なものに改めて気づかせてくれるというようなことがあるのかもしれない。お寺やご法事の場合でも、仏様の前に座って自分の心をゆったりと見つめる、そういう、非日常の時間、として大切にされるとありがたいと思います。

初瀬部 ところで牧野さんにとってお寺やお坊さんのイメージってどういうものでしたか？

牧野 そうですねえ…やっぱり「おじいちゃんおばあちゃんが行くところ」というイメージが強いですね。敷居が高いというか。そもそも気軽にいらっしゃるの？という感覚でした。「わかはん」や「おぼくさん（御仏飯のこと）」という言葉はよく耳にしましたけどね。お坊さんに関しては、法事や葬式で会う人。そんな感じかな。あ、お酒に強いとか！（笑）

初瀬部 そうですか？（笑）

牧野 でも実際にお坊さんに会ったりお話ししたりしてみると、私たちと何ら変わらない人間なんだなあと思いました。むしろ皆さんそれぞれ個性があって面白いですよ。物知りだし、ゆとりがあつて。

初瀬部 ハハハ（笑）。世間知らずだなーなんて思いませんか？

牧野 それはいいですよ！（笑）

初瀬部 確かにお寺は年配の方のイメージが強いと思いますし、若い人のお寺離れなんて言葉もよく聞きます。でも若い人も意外とお寺や仏教に興味や期待があるのではないかと勝手に感じていました。そもそも仏教はもちろん、宗教って世代を問わないものであるはずですから。ただ、これは我々の課題でもあります。が窓口が見つけづらいのかもしれないですね。

牧野 それは私も「ふるこはんフェス」の時に感じました。興味があつても普段の生活で関わる機会がないので、どんな接点を通していけばその世界に出会えるのか、と考えている人も多いように思います。

初瀬部 そこに我々は苦心しているわけですよ…。例えば、このフリーペーパーも何かのきっかけになつてくれたら嬉しいなと思います。

初瀬部 多くの人は「気軽に寄れて、語り合えて、心休まる場」を必要としていて感じます。牧野さんも「人が集まってワクワクする場所」にしたいとおっしゃっていましたが、それって実は、お寺が本来持っていた機能なんじゃないかと思うんです。

牧野 そうなんですか？

初瀬部 お寺は概ねどの地域にもあつて、子どもの遊び場であり、大人の寄り合いの場であり、お茶・お華・書道といった学びの場であり、地域文化の発信地のような側面もあつたように思います。また、これは今でもそうですが、ふらつとお茶を飲みにきてお話をしたり、地域のコミュニティの場としての役割もあつたのではないのでしょうか。

牧野 なるほど！そう言われるとそうですね。私もこのお店に集まつたいろんな世代の人たちが自由に交流して欲しいですし、食事をするだけではなくて、地域の情報や本・音楽・アート、いろんなものに触れて欲しいと思っています。

初瀬部 お寺もご門徒をはじめ、地域の人との繋がりや関わり合いの中で共に歩んできた歴史があります。若い世代が都心へ流れていくなど、種々の課題はあるものの、誰もが気楽に集えるコミュニティの場としてまだまだ多くの可能性もあるように思います。

牧野 、誰もが気軽に、というところがホントに大事だと思います。社会に生きづらさを感じている人が多い今だからこそ気軽に立ち寄れる場所、サードプレイス（※2）を作りたいですよ。

※2 家庭と職場、家庭と学校以外の第三の居場所。

流されず、立ち止まって、振り返る

初瀬部 ただ、新型コロナウイルスの蔓延以降、世の中の雰囲気はガラッと変わりました。人とのふれあい

が制限される中で、友人とお茶を飲んだり直接会って語り合うなど、以前では当たり前だったことにも不安がつきまわつてしまつて状況があります。ですがこのコロナ禍の中だからこそ、改めて気づかされるようなことも多いのではないのでしょうか。

牧野 そうですね。今のこの時間は自分にとって何が大切なかをゆつくりと考えるきっかけにもなっているように思います。最近娘（中学生）との食事の時間を大事にしています。年頃の子は食事の時じやないといつくり話できないですもん（笑）

初瀬部 それは大事な時間ですね。コロナ以前から「孤食」といったことが言われていましたし、今家でも過ごす時間が増えている分、改めて身近な人との時間の過ごし方を見つめ直す契機になっているのかもしれない。今後どの様な未来を過ごしていきたいか考えるときに、コロナ禍で気づかされた、人と人との繋がりやコミュニケーションの有り難みを忘れない様になりたいですね。

牧野 そう思います。コロナ以降盛んに言われる「新しい生活様式」や「コミュニケーションの形」を考えることももちろん大事ですが、元々あつたふれあいの姿が素通りされないような未来を想像していきたいです。

Guest



牧野 友香
Yuka Makino

ローカルな視点を大事にする「おべんとうカフェにじのこや」店主。「まいにち、手作り、無添加」のお弁当を笑顔とともにお届け！
お店の情報は下記のQRコードから。



『おべんとうカフェ
にじのこや』

営業時間
平日 11:00~18:00
土日祝 10:00~18:00
定休日 木曜日

詳しくはこちらのQRコードから



私

私たちはなぜお墓というものを作り、お参りするのでしょうか。近年とある洞窟内から五万年以上前に存在したネアンデルタール人の子どもの骨が発見されました。丁寧に埋葬された形跡があり、さらにその遺骨の周りの泥の成分を調べると、太陽の光の届かない洞窟の中では決して咲くはずのない花の花粉が何種類も大量に発見されたそうです。そんな時代から人間はお墓を作り、今の私たちのように花を供えていたということでしょう。現代と違い、食うや食わずの過酷な生活の中で、お供え物の花を何種類も集めたりすることは想像もつかないくらい大変なことだと思いますが、なぜそこまでしなければならなかったのでしょうか。その明確な答えは寡聞にして存じませんが、私自身は「愛する者が亡くなった後も、その人が大切なことに変わりはない」からではないかと受け止めています。だからこそ私たちはその人が亡くなって何十年たったとしても、わざわざ時間を割いて、大切な人の遺体が納められた場所であるお墓にお参りし、亡き人に思いを寄せるのではないのでしょうか。

column

<いのち>のリレー

～お墓参りから考える～



岡西 好持

KOUJI OKANISHI

高岡市内島 教願寺住職。心の広さと知識の幅広さ。困った時には岡西好持。頼りになる鸞翔会OB。

地域によって異なりますが、そろそろお盆の時期を迎えようとしております。お盆の起源は諸説ありますが、暑い盛りの時期に農作業や家業を一休みし、親類など親しい人々で集まり、共にお墓参りをします。亡き人を偲びつつお墓参りの後には皆で食事をするというのは、かつて共にあった故人と、今を共に生きて支え合う親しい人々とのいのちのつながりを確認する営みなのかもしれません。

人間は死んでもそれで終わりではありません。子は親の背中を見て育つと言いますが、それは親が死んだ後も変わりません。子は親亡き後も親が生前残した言葉や教えから学んでいきます。そうやって人間は先人の経験や教えを引き継ぎ、発展し歩んできました。お墓参りは、大切な人との思い出と向き合うとともに、そこから何を引き継いで、何を伝えていくのかを振り返る場でもあるように思います。

私たちは単独で存在しているのではなく祖先伝来を受け継がれてきたいのちのリレーのただ中にいるのです。それを浄土真宗では「無量寿」と言い、つきることのないいのちの中を今私が生きている、と教えてくださっています。

坊主の棚からひとつかみ

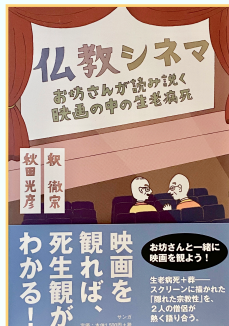


書籍



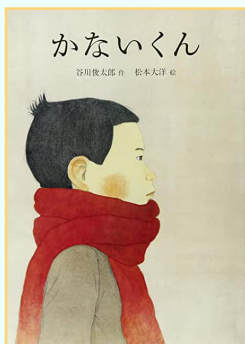
『みんな、忙しすぎませんか？
—しんどい時は仏教で考える』
釈 徹宗、笑い飯・哲夫 大和書房、2019年

NHKシブ5時の人気コーナー「悩み相談洪護寺」でもおなじみの釈先生と、仏教関連の仕事も多くこなすお笑い芸人哲夫さんとの往復書簡。仏教を軸に据え、現代人の生きづらさについて、面白おかしく本音で語り合う。



『仏教シネマ お坊さんが読み解く
映画の中の生老病死』
釈 徹宗、秋田光彦 サンガ出版、2011年

先述の宗教学者/浄土真宗僧侶（釈さん）と元映画プロデューサー/浄土宗僧侶（秋田さん）の対談。様々な映画に描かれる宗教観や死生観を通して、私たち一人一人の生老病死を深く見つめる。想像力膨らむ新たな映画体験がここに。映画に詳しくなくても読み応え十分。



こどもにもオススメ

『かないくん』
谷川俊太郎 作、松本大洋 絵
ほぼ日、2014年

「死ぬって、ただここにいなくなるだけのこと？」。日常にふと訪れる”死”について、少年の微細な心を静かに見つめる絵本。詩人・谷川俊太郎が一晩で書きあげた詩と、漫画家・松本大洋が2年かけて描きあげた絵。



こどもにもオススメ

『ブッタとシッタカブッタ』
小泉吉宏 KADOKAWA、2003年～

のほほんとしたブタさんが主人公の4コマ漫画集。タイトルからも分かる通り、仏教の教えがゆる〜く説かれる。クスツと笑ってしまうが、そこに映し出されるのは己の姿？子供も大人も楽しく読めるシリーズ本。

映画



『ペコロスの母に会いに行く』（2013年）
監督 森崎東 出演 赤木春恵、岩松了

「かあちゃん、ぼけてよかったな」。認知症の母とその息子の何気ない日常がユーモアを交え描かれる。原作者自身の介護体験を綴った同名漫画もおすすめ。

「世界最高齢での映画初主演女優」となった赤木春恵さんの遺作であり、今年7月に亡くなられた名匠・森崎東監督の遺作でもある。



こどもにもオススメ

『はなちゃんのみそ汁』（2015年）
監督 阿久根知昭 出演 広末涼子、滝藤賢一

「生きること」「いのちの意味」「食べること」。ガンを余命を宣告された母が幼い娘に遺したことは、「食べること」を通して「いのち」のつながりを見つめる。監督は『ペコロスの母に会いに行く』の脚本を手がけた阿久根知昭さん。

小津 安二郎 監督作品



『秋日和』
(1960年)



『小早川家の秋』
(1961年)



『秋刀魚の味』
(1962年)



『東京物語』
(1953年)

笠智衆のセリフ「死んでも死んでも、あとからあとから、せんだり（次々と）生まれてくるわ」。淡々とした日常にやってくる非日常の時間、変わっていく家族の関係。小津作品に通底する“家族の絆”“老いと死”を、皮肉交じりのユーモアと軽快なタッチで映し出す。それは決してあたたかいものだけではなく、時には冷たく残酷なものである。

『小早川家の秋』の最後、火葬場から立ち昇る煙を眺めるシーンでの冒頭のセリフ、なんて素晴らしいんだ。みなさん観てください。

ちなみに、笠智衆さんは熊本の浄土真宗寺院のお生まれ。

HAPPY ナムナム



まいどはや!! レン君だナモ。夏のマスクは息苦しいけど、みんなと一緒に乗り切るだナモ!! お陰様で、今回も『南無/numb』の#2を発行させていただくことができました。ということで、さっそくhappyナムナムへ~Let's Go!!!!

身近な仏教用語

退屈 (たいくつ)

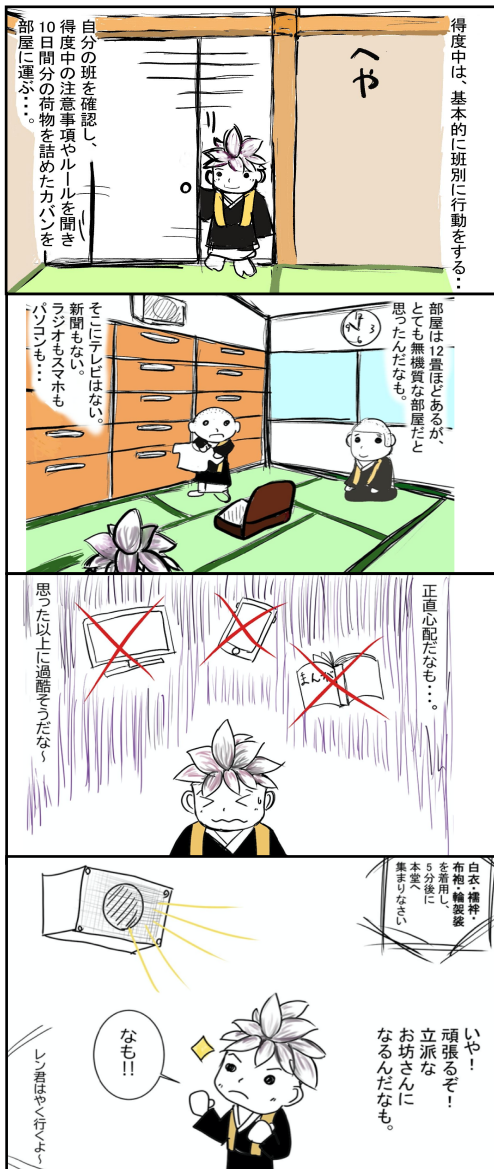
現在、コロナウイルスにより、我々の自粛が続いております。今までの行動がなかなかできない状況に退屈している方もおられるのではないかとお察しします。しかし、もともとの退屈という言葉の意味は、仏道修行を続ける気力がなくなり、精進しなくなること、と言われております。ステイホームで退屈な時、仏教に触れてみてはいかがでしょう？



未曾有 (みぞう)

最近よく未曾有という言葉を目にしませんか? 「未曾有の〜」、なんだかかネガティブに感じますよね。でも実は未曾有という言葉は本来、ほとけ様のみ教えを讃えるための言葉なんです。未だ曾て(かつて)有らず。つまり、さわめて稀なほとけ様のすぐれた教えを感嘆する意味で用いられた言葉です。未曾有という言葉を見たときは、ほとけ様のことを少し思い出してみてくださいね。

～レン君日記～vol.2



LINNE

今日



今年も9月27日に『ふるこはんフェス』を開催する予定だナモ。インターネットを使ったオンライン開催がメインだナモ!

18:15



みんな「悩んでいることや聞いてみたいこと」はないだナモ? 各種SNSでいつでも気軽に質問してくれ。

18:16



この『南無/numb』は家族みんなで回し読みするんだナモ! 独り占めは良くないだナモお〜。

18:20

19:00
既読

御意。

各種SNSも逐次更新しておりますので、ぜひご覧ください。お問い合わせは、SNS内のDM、または info@ranshokai.jp 【鸞翔会公式アドレス】で受け付けております。

Instagram



Facebook



Twitter



浄土真宗本願寺派高岡教区

鸞翔会